

品川区子ども読書活動推進計画 ワークショップ報告

1. 実施概要

(1) 目的

- 新しい子ども読書活動推進計画において重視する中高生の読書活動に関して、今後の取組を検討するため、同世代の子どもたちを対象として有効な取組を考えるワークショップを行った。

(2) 概要

① 中学生ワークショップ

- 対象：区内中学校図書委員
- 内容：中学生がもっと本を読むようになるために学校図書館ができることを考える

② 高校生ワークショップ

- 対象：区内高等学校図書委員
- 内容：高校生がもっと本を読むようになるために図書館等ができることを考える
※高校生ワークショップでは、図書館以外での取組(インターネット上での取組等)も検討した

③ 大学生ワークショップ

- 対象：区内大学図書館サークルメンバー
- 内容：中高生がもっと本を読むために地域の図書館ができることを考える
※大学生ワークショップでは、区立図書館、学校図書館、大学図書館の区別なく検討した。

2. 結果概要

(1) 中学生が考える「学校図書館ができること」

資料面での取組

- マンガの原作になった本を置く。
- 教科書で紹介された本を読む。

情報提供に関する取組

- 人気の本をランキング形式で紹介する。
- 読書の何がおもしろいのかを紹介する。
- おすすめの本を工夫したポップで紹介する。

環境面での取組

- 書架の配置を工夫し、人気の本などを目に触れやすい場所に配置する。
- 学校図書館の入口近くにおもしろい本を置く。
- カーペットやソファを置き、くつろいで本を読めるような環境にする。

その他

- 教室の近くに学校図書館が出張してくる。
- 教室におもしろい本を置く。

(2)高校生が考える「図書館等ができること」

資料面での取組

- 短時間で読める本を置く。
- 本のあらすじが分かるようにする。
- メディアミックスの作品を増やす。
- 表紙の絵や写真で興味を持たせる。

読書のハードルを下げる取組

- マンガを原作にした本をすすめる。
- ページが少ない本を読むようにすすめる。
- 小説が原作の漫画の1巻だけ置き、そこから原作に誘導する。
- 映画を観てから原作を読むようにすすめる。
- ノベルゲームで文字を読むことに慣れる。
- 短めの本など、読みやすい本をすすめる。

読書に対する動機づけ

- 勉強などに助けになる本をすすめる。ないしは助けるになることを紹介する。
- 本を読むメリット(語彙力や話題等)があることを紹介する。
- スタンプラリーをして、本を読むとインセンティブ(クーポン券等)が得られるようにする。

情報提供に関する取組(インターネットを活用した取組)

- LINEグループなどのSNSで本をすすめる。
- スマホで小説につながるような仕掛けをつくる。
- YouTubeで声優が朗読するチャンネルをつくる。
- YouTuberが本を紹介する動画を公開する。
- イケメンがInstagramに読書をしている写真を公開する。
- イケメンが自分のオススメの本を紹介する。

環境面での取組

- 年齢にあわせた本の紹介を、図書館の目立つところで行う。
- カフェなどの店舗を図書館に併設して訪れやすくする。
- 勉強に適したスペースをつくって来館を促し、そのスペースで本の紹介をする。
- 図書館で読みやすい本のコーナーをつくる。
- 電子図書の導入
- 返却しやすい環境づくり

その他

- 本を読む＝暗いという偏見をなくす。
- VRで小説を体験できるようにする。
- 自分の好きなことを入力するとおすすめのジャンルが推薦される仕組みをつくり、本を見つけやすくする。

(3)大学生が考える「地域の図書館ができること」

資料面での取組

- 将来の進路や職業のことが具体的に分かる本を置く。
- 授業に関連する本を置く。
- テストの対策に役立つ本のコーナーをつくる。
- amazonのような評価やレビューをつける。

- 図書館独自に本を紹介する帯をつくり、興味を持たせる。
- 独自の表紙をデザインし、表紙で選んでもらえるようにする。

読書に対する動機づけ

- 本を読んだ結果、どのような影響があったかグラフ等で可視化する。
- 本をよく読む人と話をしたり、いっしょに本を読む。

情報提供に関する取組(インターネットを活用した取組)

- インスタ映えするように本を展示し、写真を公開する。
- SNSで感想を発信するとインセンティブがもらえるようにして、情報発信を活発にする。
- ポケモンGOのような、本に偶然出会う仕組みをアプリでつくる。
- 『耳をすませば』や『図書館戦争』のような、図書館が舞台となったアニメ、映画等で図書館のイメージを変えるPRをする。

環境面での取組

- 難易度や本の長さ別に本を配架する。
- 気軽に話しながら本を読めるような、静かでない図書館にする。
- 中高生向けに関心を惹くようなコーナーをつくる。
- 中高生向けに本を特化しすぎないようにする。
- 図書館員の身なりを柔軟にして明るいイメージづくり
- 貸出しやすい、返却しやすい環境づくり

その他

- 本の感想を共有する場や仕組みを設ける。
- 読みたい本のチャートをつくり、本を探せるようにする。
- 音楽などが大音量でかかったナイトライブラリーを開催する。

(4)本を読むことの魅力と課題(所見)

- 本を読むことの魅力としては、語彙力や読解力、想像力が身につくことが多く挙げられていたほか、様々な知識や異なる価値観を知ることができる、非現実的なことや他人の経験を疑似的に体験できることも多かった。
- また、個人として得られることのほか、友だちや家族との話題が得られることも魅力として挙げられていた。
- 一方、読まない理由(課題)としては、時間や金銭面などの外的な要因とともに、特に中学生において読めない、分からないなどの理由が挙げられていた。(必ずしも読解力だけでなく、読み続ける根気にも関わると考える。)
- そのほか、読書をすることが他人から暗く見られる、本は堅いもの、図書館は入りにくい雰囲気であるなど、読書がマイナスイメージを持っているという意見も聞かれた。